

## 情熱や思いを持って順逆を!

### ●卒業生たちと共に人生のゴールを目指して!

昨日、浦高囲碁将棋部(囲碁)が全国大会で団体優勝を遂げたことをお知らせしましたが、翌22日に行われた個人戦においても津田裕生くん(1年)が全国優勝を果たし、団体と個人を制覇したニュースが浦高ホームページに掲載されました。おめでとうございます。



同ホームページには17日の卒業式の校長式辞も掲載されていたので抜粋を…。

\* \*

### ◆第67回卒業式校長式辞



第67回卒業の359名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんが入学する一年前の2011年3月11日、未曾有の東日本大震災が発生しました。そして4年前の今日3月17日は、福島第一原発が冷却機能を失い建屋が爆発したことから、自衛隊や警視庁が必死の放水作業を行い始めた異常事態のまさにさなかでありました。

そうした状況の中で、それぞれの中学校で学びそして中学校を卒業し、この浦高の門をくぐった皆さんは、日本が直面する課題の大きさに向きあいながら、ある種の覚悟をもって浦高生活を送り始めたことと思います。

そうした状況の中で、それぞれの中学校で学びそして中学校を卒業し、この浦高の門をくぐった皆さんは、日本が直面する課題の大きさに向きあいながら、ある種の覚悟をもって浦高生活を送り始めたことと思います。

「尚文昌武」の理念のもと、「少なくとも三兎を追え」「無理難題に挑戦しろ」「世界のどこかを支える人間になれ」と励まされながら、仲間とともに切磋琢磨しつつ、極めて濃密な浦高生活を送ってきました。

67回生の皆さんとはたくさんの思い出があります。体育祭、文化祭、強歩大会、スポーツ大会、文化大会など様々な行事での奮闘ぶり、部活動引退に際して行った校長室でのハガキ表彰、そして朝から夜まで教室や図書館などで黙々と勉強していた姿。

その皆さんが、本日をもって浦高を去ることに、大きな寂しさを禁じ得ません。しかしながら、別れは新

たな旅立ちでもあります。万感の思いを込めて、そして皆さんのこれからの長い人生における一つの人生訓として生かせるよう、皆さんへの饒の言葉として、最後のお話をいたします。

まず一つ目は皆さんが言われ続けてきた「世界のどこかを支える人間になる」ためには、何が一番必

要なのかということ、そして二つ目に、「世界のどこかを支える人間になる」べく人生を歩んでいく上で、肝に銘じておくべき留意点、陥りやすい間違いについて、私の考えを伝えたいと思います。

「世界のどこかを支える人間になりなさい」というのは、私は大変素晴らしい言葉だと思います。それは、若田さんのように宇宙に飛び出していってもよいし、地球規模で世界中を駆け回ってもよいし、日本国内もちろん埼玉でもよい。世界のどこかで、「お前の代わりは他にいないんだよ」「お前しかいないんだよ」と回りの人に言われるくらい、頼りにされる人になりなさいということだと思います。そのためには、**確かな知識や技術つまり専門性と同時に、人間力・人間くささが必要**だと思います。

英語のギフトという言葉には、プレゼントという意味もありますが、才能という意味もあります。才能とは、まさに天から与えられたプレゼントであります。君達が浦高に入学し、卒業できたという君達の才能は、これは、もちろん自分自身の努力という面もありますが、君達が恵まれた環境にあったということであり、それはまさに天から与えられたギフトであります。だから、君達の才能は天に返さなければならない。社会のために使わなければならない。何が己の使命かを明確につかまなければなりません。

皆さんは、これから20代、30代、40代となり、それぞれが果たすべき己の役割を知り、そしてその役割を懸命に果たそうとしたいと思います。好むと好まざるに関わらず、君達は時にフォロワーにもなりつつ、色々な場面でリーダー的な役割を担うと思います。そのときに、みんなから「この人は頼りないな」と言われるのではなく、「お前しかいないんだよ」と言われるために、言い換えれば世界のどこかを本当に支えるために必要なのは何なのかということでもあります。

チャレンジ精神、リーダーシップ、人間力、色々な答えはあるでしょう。でも、私自身、これまでの人生を振り返り、またこれまで色々教えていただいた素晴らしい方々を見てきたとき、私は、「一つだけあげろ」と言われたら「**情熱**」をあげます。

それは目に見えないものです。「思い」といってもよいかもしれません。「志」という言葉に置き換えられるかもしれません。目には見えないという点で、それらは似通っています。「目」に見えるものに人は惑わされがちですが、「**目に見えないものこそ人生を変え、世界を変えていく**」と思うのです。

「情熱」は熱いざらざらとした現れ方をするかもしれません。内に秘めた静かな闘志かもしれません。でも「情熱」こそ人生を変え、世界を変えていく源であると私は思います。私がこれまで出会った素晴らしい方々は、皆そういった情熱を秘めていました。

「アトラクティブ」という英語は魅力的と訳しますが、もともとは引きつけるという意味があります。素敵な人は必ず人を引きつけるある種のオーラを持っています。その源泉が「情熱」だと思のです。

「経営の神様」と呼ばれた松下幸之助は、社長になる人への心構えとしてこんなことを言っています。「社長になる人は、どの社員よりも情熱だけは絶対に負けないという気持ちを持たなければならない」と。名言だと思います。社員によっては、社長よりも長い時間あるいは長い期間会社にいる人もいるかもしれない。より知識や技術を持っている人もいるかもしれない。でも情熱だけは誰よりも絶対に負けてはいけなくと松下幸之助は言いました。情熱は量れるものでもないし、比べるものでもないでしょう。でもそうした気構えというのは周囲の人に伝わっていくものです。

そして、その情熱は「自分のことだけを考えている」「自分だけ良ければよい」というものでは、回りの人に伝わっていかなくと思います。

**社会学者の宮台真司さんが「本気の利他は伝染する」という言葉を言っています。**そのとおりだと思います。本気でやっている人に、人々は影響を受け感銘を受けます。でも、人々に感動を与えるためにはもう一つ条件があつて、「他者のために」「社会のために」「世界のために」といった「利他」つまり「他者を利する」という思いがあると、その理念は人々に感銘を与え伝染していくということだと思います。

**世界のどこかを支えるために、どうぞ誰にも負けない「情熱」「思い」そして「本気の利他」を磨いていってください。そしてその「情熱」や「思い」は、日々訪れる一つ一つの課題、無理難題に真摯に向き合つて一つ一つ解決していく中で、磨かれていくはずです。**

さて、世界のどこかを支える上で、一番大切なのは情熱というお話をしましたが、もう一つのお話をします。情熱をもって人生を進むにしても、これからの人生の中で肝に銘じておくべき注意点、陥りやすい間違い、気をつけてほしいことについてです。

それは「**順逆を超える**」ということであります。順逆の順とは順境の順、逆は逆境の逆です。順はいいとき、逆は悪いときということだす。「**順逆をこえる**」とは、**いいときや悪いときに一喜一憂しないで、それに左右されなような心の持ち方をしなさい**ということだと思ひます。

長い人生では、必ずいいときと悪いときが来ます。人間の習性として、いいときは調子にのつたり、自分の幸運を自分の実力だと勘違いしてしまつたりするものです。さらに、人は周囲からちやほやされたりすると、どうしても頭があがり胸がそっくり返ってくるものです。家の中のほこりがたまるように、

知らず知らずのうちに、自分の中に「高慢」というほこりがたまっていってしまひます。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という言葉がありますが、いいときほど、人間は謙虚であることが必要だと思ひます。感謝の気持ちを絶対に忘れてはななくと思ひます。

逆に悪いとき、何をやってもうまくいかななくときが必ず来ます。まして将来リーダーとなるとしたら、思ふような理想的状态はそうはありません。理不尽なことや想定外なことに必ず直面します。人はそんなピンチに直面すると、絶望したりくさつたりしてしまひがちな生き物です。しかし、ピンチは見方を変えれば、現状を変えていく絶好のチャンス、自己の成長や世界の変革に向けた大きな飛躍の契機になります。まさに「ピンチはチャンス」なのです。

私自身の人生を振り返つても、いつもピンチだらけでした。特に、大学を卒業し教職を目指したものの、教員採用試験でとつてもらえず途方にくれていたのでありました。教職につくことは両親にも反対され、別の進路をとるよう諭されました。どこにも行き場所がなくなつた私は、家を飛び出し、自分でアパートを借りながら、臨時的任用の教師となり、翌年の採用試験に再び挑戦しました。今思えば、あの経験があつたからこそ、教師としての覚悟が固まつたと思ひます。本当に、ピンチこそチャンスなのです。

アメリカの詩人ウィルコックスの詩「運命の風」にこんな一節があります。意識になりますが、こんなフレーズです。

「ある舟は東に進み、また他の舟は同じ風で西に進む。行くべき道を決めるのは疾風ではなく帆のかけ方である。海の風は運命の風のように。生涯という海路、つまり海の航路を辿るとき、ゴールを決めるのは、風か嵐ではなく魂の構えだ」と。

**まさに順逆をこえて、いつも平静な魂、情熱をもっている。順風ならばそれを追い風にし、逆風ならばその向かい風も帆のかけ方で追い風にする。そんな人生を送ることが大切だと思ひます。そして順境にも逆境にも、どんなことにも感謝することができる、そんな器の大きな人間になることが大事だと思ひます。**

以上が、私の67回生に対する渾身の思いで伝えた最後のメッセージです。君達の中にある情熱を大切にしなさい。そして順逆をこえ、いつでもどんなときでも運命の風を味方につけなさい。〔後略。〕

埼玉県立浦和高等学校校長 杉山 剛士

\* \*

3月末で定年退職する私ですが、これまでの人生、常に情熱や思いを持ち順逆を超えてきたかと問われると…？ まだ60歳、杉山校長の言葉を励みに卒業生たちと共に人生のゴールを目指しまししょう。